

事業名 重要港湾^{もんべつこう}紋別港港湾整備事業
(港南地区親水緑地等の整備)

寒冷地における港湾の整備により、海に安全に親しめる水辺空間を創出し、北国の短い夏を市民が楽しめる施設として利用者等の評価の高い事業

受賞機関 北海道開発局網走開発建設部
紋別港湾建設事務所
紋別市建設部港湾課

事業実施期間 昭和62年4月～平成11年6月

事業費 2,195百万円

事業等の特徴

紋別港港湾整備事業は、平成8年2月に供用開始された氷海展望塔(オホーツクタワー)等の施設と一体となった人工海水浴場、アザラシ飼育・保護施設などの整備を図ったものである。

人工海水浴場及びアザラシ飼育・保護施設は、北国の短い夏であるにもかかわらず各々年間2万人に利用されている(紋別市人口28万人)。また、人工海水浴場とビーチバレーコート^{ビーチバレーコート}の整備により、全道規模のビーチバレー大会が開催されるなど、新たな地域おこしに役立っている。

事業の概要と利用者等の評価

紋別港港南地区では親水防波堤(クリオネプロムナード)とその先端に位置する氷海展望塔(オホーツクタワー)が平成8年2月に供用開始し、オホーツク海特有の海象である流氷と共生する賑わい交流空間の実現を図った。さらに、これらの施設とともに、人と海のふれあいを図るため、港湾背後空間を生かした人工海水浴場及びアザラシ飼育・保護施設などで構成される親水緑地を一体的に整備した。この結果、潤いと賑わいのある水辺空間が創出され、北国の短い夏を市民が楽しめる施設となった。

○新たな地域おこしへの貢献

人工海水浴場及びビーチバレーコート^{ビーチバレーコート}の整備により、全道規模の大会を催したり、市民を対象とした各種イベントが開催されるなど、新たな地域おこしと観光客の集客に貢献している。



利用状況(人工海水浴場)

○市民及び利用者の評価

(1) 利用者数からの評価

紋別市周辺で唯一の自然浜の海水浴場が水質悪化等の理由により昭和62年に閉鎖されたことから、地域から海水浴場の整備を求められていた。人工海水浴場整備後の利用者数は旧市営海水浴場を上回っている。

(2) 施設に対する市民の愛着度

人工海水浴場及びアザラシ飼育・保護施設^{アザラシ飼育・保護施設}の名称を一般公募した。

(3) 報道機関の評価

地元紙を含め、施設の内容及び利用状況に対し好意的に報道されている。

審査委員会委員の意見等

- ・北国の短い夏の楽しむ交流空間は、流氷と賑わいだけでなく、地域の人々の秋・冬へ向かう「内なる自然」へ活力を与えてくれる。
- ・北国の人のニーズに合致した施設である。
- ・短い夏を楽しむステージとして十分な価値が認められる。より長い期間の利活用を進めるためにも修景空間を広げてほしい。
- ・紋別市はわが国の中で最も寒さの厳しい地域の1つであり、流氷の訪れる場所としても有名であり、地元にとって重要な観光資源である。紋別港では、いち早くこのような地元観光と結びついた諸事業を実施している。最も寒い地域における親水緑地の一体的整備の一環として海水浴場を整備しているが、当地の短い夏や市の人口が28万人にもかかわらず、平均1日約1,000人の利用実績を記録しており、評価できる。

受賞賛助会員 五洋建設(株)札幌支店、(株)テトラ札幌支店